

## 平成18年度事業計画

平成17年度本会の活動は、会員各位の熱意によって、学術情報などの発信、技術交流、油化学の啓発など多方面で成果を挙げている。平成18年度も各事業計画をさらに充実させ、着実に執行して行きたい。特に、論文誌「Journal of Oleo Science」の刊行は、国内外に対する本会の最も重要な活動の一つであり、内容および投稿件数のさらなる拡充のため一層の努力をしたい。「オレオサイエンス」誌は、最新の情報・会告など会員相互および会員と学会を繋ぐ交換媒体として、その役割と簡便さを維持していく。各専門部会・若手の会および支部が主催する講演会やセミナー、(財)油脂工業会館との共催地区講演会、フレッシュマンセミナーなどの活動は年ごとに充実してきたが、新たに「オレオナノサイエンス部会」を立ち上げ、その活発さを維持していきたい。国際交流に関しては、AOCs や ISF との密接な交流を中心に近隣諸国との関係を強化する。平成18年度の年会ではタイ国油化学関連機関とシンポジウムを開催するなど、JOCs のさらなる国際化を図りたい。また、日本油化学会会員から界面活性剤の国際規格(ISO)を検討する委員会(TC91)の議長を推薦することになり、学会としてのサポート体制をつくる。会務としての業務は堅実に遂行するが、特に本学会のホームページの充実と情報交換手段として電子情報の効率的活用の一層尽力したい。

### 1 会務

#### 1.1 総会

第52回通常総会を平成18年3月31日、油脂工業会館会議室で開催する。平成17年度事業報告および収支報告、平成18年度事業計画案、収支予算案等を審議し、平成18年度役員を選任等を行う。通常総会終了後、総会報告会および表彰式を開催し、日本油化学会功績賞および平成17年度学会賞等選考結果等について報告し、表彰する。つづいて講演会ならびに懇親会を開催する。

#### 1.2 理事会

平成18年度理事会の開催予定数は5回。平成18年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の企画・実行、平成18年度一般会計・特別会計決算案および平成19年度同予算案の作成等、重要案件について審議し、決定する。

#### 1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

#### 1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、個人情報保護法との関連において会員名簿のあり方を検討し、また、諸規定の改定、ホームページ委員会によるHPの充実をサポートする。財務委員会は、会員増強委員会などと連携して財政基盤の健全化につとめる。企画・部会統括委員会は、オレオナノサイエンス部会発足に際して専門部会間の調整・推進をはかる。国際交流委員会は、第6回JOCs-AOCs ジョイントシンポジウムの開催準備に努力するとともに、年会における外国油化学会とのジョイントシンポジウムの開催を支援するなど、本会の国際的な活動を推進する。編集委員会は、「JOS」への内外からの投稿を増やすことに努めるとともに、インパクトファクターの取得に向けて努力する。規格試験法委員会は、トランス酸の分析法、基準油脂分析試験法の英文化等についてひきつづき検討する。新たに界面試験法に関する委員会を発足し、界面活性剤の試験法についてISOとの整合性をはかる。

## 2 事業計画案

### 2.1 本部事業

第7回フレッシュマンセミナーは、「油脂と脂質」については5月に、「界面科学と界面活性剤」については6月に東京理科大学でそれぞれ開催し、油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。また、第6回基準油脂分析試験法セミナーと第4回界面活性剤評価・試験法セミナーをひきつづき開催し、試験法の定着をはかる。さらに、企業の中堅社員向けのセミナーとして昨年から始めたオレオサイエンスフォーラムをひきつづき行う。

### 2.2 支部活動

3支部による講演会、セミナー等は例年に倣って開催する。また、地域ごとの小集団活動の支援について検討する。さらに、支部活動の範囲を拡げるための地区講演会(油脂工業会館共催)は「油脂・脂質の機能と健康」を共通のテーマとして、函館市(関東支部)、つくば市(関東支部)、岐阜市(東海支部)、徳島市(関西支部)および金沢市(関西支部)においてそれぞれ開催する。

### 2.3 専門部会活動

専門部会は、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会の5部会については4年目を迎えるが、平成18年度からオレオナノサイエンス部会を加えた6部会体制になる。各部会は、部会長の指導のもとに専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化をはかる。独立採算制のもとに、小集団活動的運営のもとに部会の活性化をはかる。

### 2.4 会誌

学術論文誌「Journal of Oleo Science」と、学術情報を中心とする「オレオサイエンス」を各々12号発行する。「JOS」会員からの積極的な投稿を募り、一層の充実を図る。また、インパクトファクターについては取得するために必要な要件をクリアーするよう努力する。「オレオサイエンス」は会員に親しまれる会誌づくりに努め、抄録の充実、誌面の刷新を行う。なお、本年は油脂と環境をテーマとした中特集号を予定している。

### 2.5 日本油化学会年会

平成18年度第45回年会は、阿部正彦実行委員長(東京理科大学)のもと、東京理科大学野田キャンパスにおいて、9月8日(金) - 10日(日)に開催する。特別講演、受賞講演、一般発表(口頭およびポスター)、専門部会主催のシンポジウム・ランチョン等を行う。また、会期中にチュラルロンコーン大学、チェンマイ大学等のタイ国関係機関とのジョイントシンポジウムを開催する。

### 2.6 JOCs-AOCS ジョイントミーティング (JM2007)

第6回JM2007は、2007年5月に開催されるが、高橋是太郎実行委員長(北海道大学)のもとに実行委員会が組織され、脂質の分析をはじめとして8分野においてシンポジウムの準備が進められている。シンポジウムは口頭発表およびポスター発表がそれぞれ行われるが、日本の油化学関連工業についてPRすることを目的に「日本パビリオン」を会場に開設し、法人・団体会員向けに展示用のブースと懇談用のスペースを設ける計画を進めている。